

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名： 秦野市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社愛鶴	上地区乗合自動車 1 運行系統名:「湯の沢線」 渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) 2 運行便数 渋沢駅北口発5便、湯の沢終点発11便 ※平日のみ運行	前回の事業評価結果において 助言等をいただいた内容は次のとおり。 「①運行ルートの見直しをきっかけに、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。」 「②定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい」 上記の助言等を踏まえ、上地区乗合自動車を運営する上地区公共交通協議会において、協議を重ね、令和5年10月から新ルート及び新ダイヤでの運行を開始した。その結果、乗車機会が約2倍になり、利用者の利便性向上に繋がった。また、「利用応援定期券」の販売や「クイズラリー」を実施し、利用促進を図った。	A 計画に位置付けたとおり、令和5年10月から、従来の2路線を統合した、上地区循環路線の運行が開始され、利用者の利便性向上に繋がった。 また、「利用応援定期券」の販売や「クイズラリー」を実施し、利用促進にも努めた。 上記のことから、秦野市地域内フィーダー系統確保維持計画に基づき、利用者の交通手段を確保維持することができたため、事業は適切に実施された。	C 上地区乗合自動車を持続可能なものとするため、上地区公共交通協議会において、「継続要件:2.40人/便以上」、「継続目標:3.72人/便以上」を定めている。 令和6年度(令和5年10月～令和6年9月)の運行実績は2.37人/便(昨年度と同数値)であり、継続要件及び継続目標ともに達成ができなかった。	利用状況改善のため、利用実態把握を目的としたアンケート調査を地域住民向けに実施した。 アンケート結果等を踏まえ、より効率性の高いルートやダイヤ等を検討し、利用状況及び収支の改善に努める。
	上地区乗合自動車 1 運行系統名:「みくるべ・八沢循環線」 渋沢駅北口～渋沢駅北口(15.5km:循環系統) 2 運行便数 4便 ※平日のみ運行				
	上地区乗合自動車 1 運行系統名:「八沢・みくるべ循環線」 渋沢駅北口～渋沢駅北口(15.4km:循環系統) 2 運行便数 5便 ※平日のみ運行				
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	「利用応援定期券」の販売や「クイズラリー」の実施による利用促進策を行うなどの取組は評価できるが、継続要件及び継続目標の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月30日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈中タクシー株式会社	運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス) 運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント 119箇所)及び一部町外(乗降 ポイント1箇所)を対象としたデ マンド型交通システム(区域運 行型) 運行日:月曜日～金曜日 運行時間:7時～19時 運賃: 町内 大人200円、小人100円 町外 大人400円、小人200円	前回の事業評価では、住民を 巻き込み、自分事化するような 仕組みの検討や、定量的な目 標を示し、関係者と情報を共有 しながらの推進といった助言が あった。 地域公共交通計画の策定が完了し、目標達成のために位置 づけられた事業を着実に進め つつ、評価指標の数値が向上 するよう努めた。 65歳以上の方及び妊産婦の方 について、希望のポイントで降 車ができるサービスを実施して おり、新たに年齢到達した方等 を対象に加えることとした。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	B 事業が計画に位置付けられ た目標を達成できていな い点があった。 目標:利用者数 42人/日 実績:利用者数 32人/日 分析:登録者数は微増して いるものの、登録してもただ ちに利用しない人が一定数 存在する。念のために登録 していると思われるが、まず は一度利用してもらえよう 周知等を行い、すそ野を広 げる必要がある。 一方、交通空白地域の在 住者、運転免許を持たない 交通弱者など本来救うべき 移動手段の無い人等の利 用は一定の件数で推移して いる。	現行の運行体制で、交通空白 地域の在住者や交通弱者等が 利用しやすい環境が一定程度 維持されているが、より効率的 な運行のためには乗り合いを 増やすことが重要であり、人の 移動の目的地となる交通結節 点のような場所を造り出す必要 がある。 引き続き、路線バスを補完する フィーダー的役割を担っている オンデマンドバスの安定的な運 行を図るとともに、障害や年齢 などに関係なく、誰もが利用し やすい交通環境を構築していく ことを目指す。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	65歳以上の方及び妊産婦の方について、希望のポイントで降車ができるサービスを実施し、利用者利便の向上に取り組んだことは評価できるが、オンデマンドバスの利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名: 二宮町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈川中央交通西株式会社	地域内交通を確保・維持する取り組みの一つとして、交通空白地域を通り、地域間幹線系統や鉄道駅を接続させる、定時定路線・町内循環型のコミュニティバス「にの♥バス」を平成29年10月から運行している。令和4年10月からは、「にの♥バス」利用者の利便性向上のため、町北部の大規模小売店舗を経由するようルートを延伸するとともに、ダイヤの再編を行った。また、「にの♥バス」利用者数拡大のため、③に記載のとおり利用促進を行った。	「住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。」との評価を受け、従来から引き続き、「地域の通いの場」において「にの♥バス」を使った具体的なお試しコースの提案・無料券の配布を行い、地域住民同士連れ立っての外出に「にの♥バス」を利用してもらえよう促した。また、「定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。」との評価については、令和6年3月に地域公共交通計画を策定し、計画内で目標と進捗状況を測るための指標を示した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【乗車人数】 目標: 100人／日 実績: 108.7人／日 分析: 前年度比で約20.3%増加し、目標を達成した。夏季期間における小人料金の無料化やルートの延伸による利便性の向上、コロナ禍の影響が緩和したこと等が要因であると考えられる。 【手形及び回数券購入】 目標: 320人 実績: 397人 分析: 前年度比で21%増加し、目標を達成した。乗車人数自体が増加傾向にあり、手形・回数券の利用者もそれに比例して増加したこと、中学校や町広報での「にの♥バス」の紹介等により、制度の周知が進んだことが要因と考えられる。	・手形や回数券の制度の周知を含め、「地域の通いの場」や妊産婦の面談時における啓発を継続する。 ・夏季期間の小人料金の無料化の実施により、子どもの乗車数は増加したが、利用する時間帯が集中してしまうなどの課題もあったため、無料期間後も継続して利用してもらえる方法と併せて対応を検討する。 ・利用者の大半を高齢者が占めていることから、町のイベント時に案内を実施するなど、若い世代への周知についても検討する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	「にの♥バス」を使った具体的なお試しコースの提案・無料券の配布等に取り組み、乗車人数、手形及び回数券購入の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年12月25日

協議会名： 相模原市地域交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
YM交通(株)	吉野・与瀬地区乗合タクシー 「ふれあい号」 営業区域：吉野・与瀬地区 運行日：月曜～金曜 運行時間帯：9時台～16時台 運賃：大人300円※割引あり	利用促進協議会を開催し、利用状況の実態説明と地域の需要把握を行い、利用促進活動の方向性の検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・稼働率：59.9％/60％(未達) ・1便あたり利用者数：1.9人/2.0人(未達) ・年間利用者数：2,168人/2,279人(未達) 【分析】 近年、ヘビーユーザーが特定の便を偏って利用する傾向にあり、新規利用者の獲得が十分にできていないため、目標達成に至らなかったと考えられる。	引き続き、利用促進協議会とともに、新規利用者の獲得に向けたPRや利用方法の周知等の利用促進活動を行っていく。 また、運行ダイヤ等の見直しなど、利便性の向上に向けた検討を進めていく。
富士急バス(株)	名倉循環線 系統：藤野駅～名倉～藤野駅 (8.9km、循環) 運行回数：平日7回/日、土曜4回/日 運賃：210～320円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 22,674人/27,200人(未達) 【分析】通学需要が主となっている中、沿線にある市立小学校の児童数が減少(▲20人)していることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
神奈川中央交通西(株)	野05 系統：藤野駅～馬本・大鐘～奥牧野 (7.7km) 運行回数：平日2.5回/日、土休2回/日 運賃：210～350円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 7,409人/8,600人(未達) 【分析】通勤需要が主となっているが、コロナ禍を経て、生活様式が変化したこと等により、公共交通の利用者数が全国的に2割程度減少している傾向にある中、当該路線においても、目標達成に至らなかったものと考えられる。	地域で公共交通を維持していくという当事者意識を持っていたり、地域と連携した利用促進策の実施を検討する。 また、社会情勢等の変化を捉えた運行内容の見直しなど、利便性の向上に向けた検討を進めていく。
	野08 系統：藤野駅～上河原～和田 (5.6km) 運行回数：平日7.5回/日、土休8回/日 運賃：210～300円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 27,602人/42,400人(未達) 【分析】従来、多くの観光客が利用している路線であるが、コロナ禍を経て、市内の観光入込客数は、2割程度減少している(R6.3末時点)であることに加え、当該路線の沿線(澤井、佐野川地区)人口も減少傾向にあることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
	野11 系統：藤野駅～山口原～やまなみ温泉 (5.1km) 運行回数：平日5.5回/日、土休7.5回/日 運賃：210～270円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 19,575人/29,400人(未達) 【分析】終点近くにある温泉施設の改装が終了し、営業再開した(R5.8～)ことにより、前年度(17,186人)と比較すれば、利用者数は回復しているが、コロナ禍を経て、市内の観光入込客数は、約2割程度減少している(R6.3末時点)であることに加え、当該路線の沿線(日連、牧野地区)人口も減少傾向にあることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
	野12 系統：藤野駅～やまなみ温泉～奥牧野 (10.5km) 運行回数：平日7.5回/日、土休6回/日 運賃：210～350円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【実績/目標】 ・年間利用者数 32,764人/32,700人(達成)	
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進協議会の開催による利用促進活動の方向性の検討を行うなどの取組は評価できるが、年間利用者数等の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となったりする住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月31日

協議会名: 大磯町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
伊豆箱根交通株式会社	系統名:東ルート 西小磯東地区の一部地域(乗降場所30箇所)と町内4箇所(役場、郵便局、図書館、駅)間を対象としたデマンド型タクシー 系統名:西ルート 西小磯地区の一部地域(乗降場所30箇所)と町内2箇所(病院、スーパー)間を対象としたデマンド型タクシー	前回の事業評価結果の顧慮すべき事項として、 ○乗車人数に応じた運賃割引制度などの取組により、稼働率の目標を達成している点は評価できるが、輸送人数および西ルートの稼働率の目標は未達成となった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。とあり、この配慮事項に対し、令和5年度に作成した大磯町地域公共交通計画を基に利便性向上及び利用促進の取組について検討した。	A 大磯町地域公共交通総合連携計画に基づき、公共交通空白地域である赤坂台地区を含む西小磯の一部地域において、地域の住民と協働で、当該地域に最も適している乗り物は何か検討を行った。事業実施にあたり、事前に当該地域の住民を対象にアンケート調査を実施し、住民の利用頻度や乗降場所の特定を行った。 以上のことから地域の特性と住民の声に即した乗り物の確保を行うことができ適切な事業を実施した。	B 大磯町地域公共交通総合連携計画の「稼働した便の1便当たりの輸送人数が1.5人以上」の目標に対し、令和6年は東ルート1.2人、西ルート1.1人であった。令和5年の事業評価では東ルート1.1人、西ルート1.0人であったので、昨年より両ルート共に0.1人の増加だった。また、もう一つの目標である「全運行本数に対する実運行本数の稼働率30%」に対して、令和5年は東ルート32%、西ルート7%であった。令和4年の事業評価では東ルート31%、西ルート8%であったので、東ルートの稼働率は増加したが、西ルートの稼働率は昨年より減少し、西ルートは目標を達成できなかった。	令和5年の事業評価の中に、 ○乗車人数に応じた運賃割引制度などの取組により、稼働率の目標を達成している点は評価できるが、輸送人数および西ルートの稼働率の目標は未達成となった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。とあり、本年度も輸送人数及び西ルートについては、目標未達成となっているため、令和5年度に作成した大磯町地域公共交通計画を基に、引き続き利便性向上及び利用促進の取組について検討していく。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	住民アンケート調査の実施による住民の利用頻度や乗降場所の特定を行うなどの取組は評価できるが、稼働した便の1便当たりの輸送人数や西ルートの稼働率の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名: 湯河原町地域公共交通会議
評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
湯河原タクシー(株)	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」温泉場エリア	リピーターの利用者が定着しているほか、町広報誌や自治会への回覧チラシ配布などの周知、さらにはロコミなどの広がりにより、昨年度同様に利用者は増加傾向である。 また、利用者からの運行日拡充の要望を受け、令和6年4月から土曜日運行を開始し、半年間ではあるが一定数の利用があるため、効果を十分に感じ、利用を促進するものとなった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標数値】 乗車密度 1.5人/便以上 ※乗車密度＝利用者数/運行便数 【結果】 乗車密度 1.99人/便 【参考】 各系統の乗車密度 温泉場 1.24人/便 オレンジライン 2.34人/便 鍛冶屋1 1.27人/便 福浦 1.24人/便	周知を継続的に行い、「ゆたぼん号」を必要とする方、今後必要となる方へ情報を届ける必要がある。 交通不便エリア、運行時間の拡充など利用者から要望を受けることがあるので、今後も利用者アンケート、交通不便エリアへのアンケートおよび利用者説明会を開催し、現状把握を定期的に行う。
湯河原タクシー(株)	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」オレンジラインエリア				
湯河原タクシー(株)	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」鍛冶屋エリア				
湯河原タクシー(株)	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」福浦エリア				

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	町広報誌や自治会への回覧チラシの配布等による利用促進策の実施等に取り組まれ、乗車密度の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・利用状況を把握し、利用者が集中する時間帯や目的地等があれば、一部を定時定路線にするなど利用者に合ったサービス内容の変更を検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月30日

協議会名:	大井町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急モビリティ株式会社	1.相和循環(往路③⑥便) 運行日:月・火・水・金・土(土曜は午前のみ) ※令和6年5月より水曜も運行開始 運行回数:2回／日 運賃:200円※割引あり 2.相和循環(復路⑤⑦便) (⑦便のみR6.4～R6.9) 運行日:月・火・水・金・土 (土曜は午前のみ) ※令和6年5月より水曜も運行開始 運行回数:2回／日 運賃:200円※割引あり 3.相和循環(復路⑦便) (R5.10～R6.3) 運行日:月・火・水・金・土 (土曜は午前のみ) 運行回数:1回／日 運賃:200円※割引あり 4.西大井・金子循環(④便) 運行日:月・火・水・金・土 (土曜は午前のみ) ※令和6年5月より水曜も運行開始 運行回数:1回／日 運賃:200円※割引あり 5.登下校ルート(①⑧⑨便) ※令和6年4月より①便運休 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:3回／日 運賃:200円※割引あり 6.登下校ルート(②便) 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:1回／日 運賃:200円※割引あり	・広報やSNSなどへの定期的な掲載によりゆめバスの運行は、この3年で定着しつつある。 ・前回からの評価を受け、町民との意見交換会やアンケート調査を実施し町民がおおいゆめバスに求めているもの、運行を継続の要望を把握した。それを受けて、ダイヤ改正や運行日の拡大を行った。 ・無料バスの利用状況の把握を行うために、こども無料バス利用者に向け整理券でのカウントを開始した。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【目標】 一般利用者数 6,000人 小中学性利用者数 4,000人 収支率 8.7% 【実績】 一般利用者数 6,534人 達成率 108.9% 小中学生利用者数 5,983人 達成率 149.6% 収支率 7.3% 【評価】 ・利用者数は、一般利用者と小中学生共に目標を達成した。小中学生は少子高齢化による影響か、昨年よりも利用者数が減少している。 ・昨年町内在住の75歳以上の高齢者の運賃を無料としたことにより、収支率が4.5%となったが、今年度は7.3%と目標値にあと1.4%(200円利用者があと、1,213人)となった	・利用実績の分析を行うとともに、今後、運転免許証返納等によりゆめバスの利用者の増加が予想されることから地域全体のニーズを把握する意見交換会等の場を設ける。その結果をもとに、利用者の増加、利便性の向上に繋がる運行形態となるよう地域や事業者と調整を図る。 ・ゆめバス限定の広告掲示企業を増やし、掲載の意向があった企業を中心に乗車特典の提供を打診し、ゆめバスに乗車する付加価値をつけることで、利用促進を図る。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	町民との意見交換会やアンケート調査の実施等に取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				